

広報

かみごおり

さわやかに歴史と未来の出逢うまち

1月号

1995. No.309

(平成6年12月22日発行)

発行・編集/上郡町役場・広報委員会 ☎2-1111



明けまして

おめでとうございます

12月3日(土)、待望の智頭線が開業し、赤松地区あげて記念式典や旗行列、もちまき、カラオケ大会などの祝賀イベントが盛大に繰り広げられ、苔縄駅と河野原円心駅はお祝いムード一色に包まれました。

★主な内容

- ・新年のあいさつ 2～3
- ・祝智頭線開業 6～7
- ・財政事情のお知らせ 8～10
- ・ふれあいフェスティバルかみごおり 12～16
- ・まちの話題 18～20
- ・お知らせ 21～24
- ・歴史散歩 25

★人口のうごき (11月末現在、()内は前月比)

- ・人口 19,396人(-14)
男9,290人 女10,106人
- ・世帯数 5,815世帯(+6)

祝 智頭線開業

平成6年12月3日 智頭急行株式会社

祝 智頭線開業

100年ごしの悲願…智頭線 12月3・4日盛大に祝賀イベントを開催!!



十二月三日(土)、明治三十年の建設構想から約百年をへて、町民の長年の念願であった智頭線が、ついに開業しました。

幾多の困難を乗り越えての開業を祝い、三日と四日に上郡町あげての多彩な開業記念イベントが繰り広げられました。

三日(土)には、智頭線駅前広場で、上郡町をはじめ佐用町、上月町など兵庫県関係者約三百人が参加して、智頭急行(株)による開業記念式典が行われました。

福井町長の開会あいさつに引き続き、貝原県知事から「ふるさとの鉄道との思いで利用性を高め、県民交流の場に発展することを期待しています。」との祝辞をはじめ、多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。

その後、会場を三番ホームに移し、特急はくととの到着と同時にテープカットやくす玉割り、山野里幼稚園児からの運転士と女性車掌への花束贈呈などが盛大に行われ、多くの見学者とともに開業を祝いました。

また、苔縄駅、河野原円心駅のある赤松地区では、地元あげ

て祝賀行事が行われました。

四日(日)は、上郡町総合体育館で、町主催の開業記念式典を開催。各来賓の見守る中、鉄道建設の功労として元町長の種継さん、川本さん、そして前町長の中尾さんへ感謝状が贈られるなど、数々の苦勞をへての開業を喜び祝福していました。

同時に駅前では、町、商工会、駅前商店会及び駅前自治会合同で、智頭線オープンングフェスティバルを開催。小学生児童による祝賀パレード、お楽しみ福引会、各バザーやマグロの解体ショーなどの商工まつり、早かご競争、大道芸能、太鼓の共演などが盛大に繰り広げられ、約一万五千人の方々が参加し、町民あげての祝賀イベントを楽しみました。



お楽しみ福引会



上郡中学校ブラスバンド部による演奏





上郡小学校児童による一輪車パレード



県警音楽隊のパレード



マグロ解体ショー(商工まつり)



56.1mを競った早かご競争

期待と挫折の歴史

幾多の苦難を乗り越え出発!!

智頭線の概要

智頭線は、上郡駅を起点に千種川を北上し、姫新線佐用駅を経て、鳥取智頭駅に至る総延長五十六・一kmの路線で、山陰と山陽を最短距離で結ぶ第三セクター方式の鉄道です。

智頭線のあゆみ

智頭線は、明治三十年、播美軽便鉄道計画として姫路・鳥取間(姫鳥線)の建設が提唱され、上郡町内でも一部は着工されましたが、資金面と工事の難行により計画は中止されました。しかし、南北路線の必要性は

高く評価され、大正十一年、鉄道敷設法により敷設線に指定され、建設の第一歩を進めました。昭和三十三年には、兵庫、岡山、鳥取の三県と沿線町村で智頭上郡線鉄道建設期成同盟会が結成され、陳情などの建設運動を強力に推進しました。そして、昭和三十六年に、鉄道建設審議会にて智頭く佐用間が調査線に決定、昭和三十七年には、新しく智頭く上郡間が工事線に採択され、智頭線建設に向けて大きく進展しました。昭和四十一年、佐用町で国鉄線として工事着工式が行われ、その後、六年余りの歳月が過ぎ、

佐用く智頭間の工事が八十五%を越えた昭和四十七年、苔縄地区で待望の工事着工式が行われました。しかし、国鉄の累積赤字を解消する国鉄再建計画により、路盤工事が九十三%まで進んだところで工事が中止。事実上、国鉄による智頭線開業は不可能となりました。この後、地元町村、三県、国など関係者の懸命な努力により、智頭線の第三セクター化が検討され、昭和六十一年に智頭鉄道(株)が設立。そして、昭和六十一年に工事が再開されました。平成三年には、列車の時速を百三十kmまで上げる高規格化事業を決議。平成六年の今年には、特急列車名を「はくと」に決定、ブルーとワインレッドを基調に

した「スーパーはくと」も誕生しました。そして、期待と挫折を繰り返して、長年の念願であった智頭線が、ついに十二月三日開業しました。

建設の思い出を語る

元町長 川本 勲

智頭線の開業を心よりお祝い申し上げます。

安東哲次郎智頭町長が、智頭・上郡線鉄道期成同盟会々長、そして私が副会長であった昭和三十五年当時、鳥取県東京事務所の佐々木良介氏との三人で、調査線昇格につき、国鉄、運輸省、国会議員に何回も陳情いたしました。しかしながら陳情の結果、全く予期しなかった智頭・佐用間が調査線に決定、佐用

・上郡間は予定線に据置されました。据置の理由は、智頭・佐用間は工事着手の可能性はあるが、佐用より姫津線に接続するから佐用以南は工事の必要なし、とのこと。万策つきて、上郡起点の智頭線はあきらめるより仕方がないと苦悶の毎日でした。大上司先生より、田中角栄先生におすがりするほか仕方がないと、大上後援会長山本巖氏と一緒に、早期、自宅に伺い涙の陳情をいたしました。田中先生より、時の岡本悟鉄道監督局長に、電話で智頭・上郡線の佐用・上郡間を見直すよう要請してもらいました。岡本局長の特別のご配慮により、昭和三十七年、智頭・上郡間が智頭線として工事線に採択されました。上郡町内での最初の工事は、苔縄でしたが、用地買収が行きづまって一年余り工事着手が遅れ、私は職を賭してもとの決意で解決にあたりました。昭和六十一年、貝原知事の決断で智頭鉄道株式会社が設立され、一世紀にわたる大事業が完成したものと、貝原知事に感謝し開業の喜びといたします。